

釧路市教育委員会 令和8年第12回5月定例会会議録

1 日時：令和8年5月28日（木）13時30分から15時00分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

大山稔彦委員、小出美貴子委員、靱山彩子委員、金安真人委員

（事務局）

澤口学校教育部長、藤岡生涯学習部長、本川教育指導参事、川中総務課長、臺野施設  
計画主幹、小西学校教育課長、三浦教育政策主幹、大島学校指導課長、畠山総括指導  
主事、鈴木北陽高等学校長、及川北陽高等学校事務長、司口生涯学習部次長、曾根美  
術館長、秋葉博物館長、鈴木動物園長、池田スポーツ課長、長山阿寒教育事務所長、  
田井音別教育事務所長

4 議事録署名人 小出委員 靱山委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

（1）阿寒地区義務教育学校開校準備協議会の開催結果について

（2）ふるさとキャリアシンポジウムの開催について

（3）令和8年度「少年の主張」釧路市大会の開催について

（4）北陽高等学校への景文高級中学訪問団の来校について

（5）「CONSADOLE HOKKAIDO TOURS」における北海道コンサ  
ドーレ札幌の選手来訪について

（6）学校の現状について

## 7 会議内容

### 【公開案件】報告事項

#### (1) 阿寒地区義務教育学校開校準備協議会の開催結果について

##### (三浦教育政策主幹)

報告事項1、阿寒地区義務教育学校開校準備協議会の開催結果について報告する。

釧路市がめざす学校のすがた基本計画に基づき、令和11年度に開校を予定している阿寒地区義務教育学校の開校に向けて、先週22日、阿寒小学校において第1回目となる開校準備協議会を開催した。当日は、委員15名中、14名にご出席いただいた。会議では、はじめに岡部教育長より各委員への委嘱状の交付を行い、続いて会長に阿寒中学校の本田校長、副会長に阿寒小学校の太田校長が選出された。その後、事務局より、会議を原則公開とする方針をはじめ、今後のスケジュール、協議会ニュースの発行や配布方法、新しい学校名の決定方法などについて説明と提案を行い、委員の皆様から各項目について承認を頂き、第1回開校準備協議会を終了した。

次回2回目の開催については、6月中旬から予定している新しい学校名の公募終了後となる8月中旬から9月上旬に開催を予定している。3回目以降の開催については、配布資料に記載のスケジュールを基本として進め、令和11年度の開校に向け、しっかりと協議を重ねてまいりたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

### 【公開案件】報告事項

#### (2) ふるさとキャリアシンポジウムの開催について

##### (大島学校指導課長)

報告事項2、ふるさとキャリアシンポジウムの開催について報告する。

中学校1年生を対象に、「ふるさと釧路」への理解と愛着を深めながら、自分の将来の生き方や働き方について考える機会とする、ふるさとキャリア教育として望ましい職業観を養い、中学校3年間のキャリアプランの形成を円滑にすることを目的に、オンライン形式によるシンポジウムを開催する。子どもたちが自身のキャリア形成を思い描く中で、「ふるさとで働くこと」をより意識できるよう、今年度もふるさと教育と連動した取組として充実させて参りたいと考えている。開催日時は、6月4日(木)の10:15～11:15を予定している。会場は、各中学校の教室等と釧路市中央図書館の多目的ホールをオンラインで中継し、菊池吉史JC理事長、岡部教育長のお二人のパネラーにより、「働くこと」と「生きがい」「ふるさと釧路のよさ」をテーマに、生徒に対してメッセージをいただく。コーディネーターは今年度より畠山和彦総括指導主事が務める。なお、シンポジウムの模様は動画で記録し、今後

の成果の検討などに活用していきたいと考えている。1年生を対象とした本シンポジウムに加え、2年生を対象としたジョブカフェ釧路や、主に3年生が参加する子どもミーティングなど、子どもたちが主体的に将来の生き方や進路を選択できる資質・能力を育むとともに、地域の魅力や課題への気づきを通して「ふるさと釧路」の大切さを再認識し、自己実現や地域社会への貢献につなげられるよう、各事業を連動させながら、ふるさとキャリア教育を進めてまいりたい。

◎この報告について、各委員から次の通り発言あり

(大山委員)

今回、教育委員も美原中学校へ直接伺い、現地でシンポジウムを傍聴させていただきたいと考えている。その際、子どもたちの様子を一緒に拝見するとともに、校長先生からもその学校の教育について直接話をお聞きしたいと思っているので、よろしく願いしたい。

(金安委員)

菊池吉史 J C 理事長は大変素晴らしい方であり、当日は大変良いお話が聞けるのではないかと、私自身も先輩として大いに期待しているところである。中学生だけでなく、大人が聞いても十分に興味深い内容になるのではないと思う。

#### 【公開案件】報告事項

(3) 令和8年度「少年の主張」釧路市大会の開催について

(大島学校指導課長)

報告事項3、令和8年度「少年の主張」釧路市大会の開催について報告する。

「少年の主張」釧路市大会は、青少年が日常生活の中での心からの思いや考え、感銘を受けたことなどを発表することで、社会の一員としての自覚と行動を促す契機とするとともに、市民が青少年の健全育成に対する理解と関心を深める一助とすることを目的に開催している。対象は、市内各中学校に在学している生徒となる。それぞれの中学校から一名の代表者を選出いただき、今回は16名の発表を行う。日時と会場については、6月6日(土)の13時30分からコーチャンフォー釧路文化ホールの小ホールにて審査員6名との対面方式で行う予定となっている。一人5分程度の時間で発表を行い、その中から最優秀賞1名を選出し、釧路総合振興局地区大会の出場者として推薦をする。また、来場が出来ない友人や生徒、親族、学校関係者にも視聴していただくよう、後日、大会の模様を期間限定で動画をアーカイブ配信しようと考えている。「少年の主張」釧路市大会を契機に、中学生をはじめとする多くの子どもたちが「社会の一員としての自覚と行動」を自分の言葉で表現できるようになり、主体的に将来の生き方や進路選択を実現できる資質・能力を身に付けることができるように努めて参りたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

(4) 北陽高等学校への景文高級中学訪問団の来校について

(鈴木北陽高等学校長)

報告事項4、北陽高等学校への景文高級中学訪問団の来校について報告する。

まずは教育委員の方々、教育長はじめ市教委の方々に昨日、一昨日とご足労頂き、有難く思う。昨年度は1日間の来校だったが、景文高級中学の希望により、今年度は2日間とし、5月26日および5月27日に生徒19名をはじめ、卒業生および引率教員を含む合計24名が来校した。交流プログラムについては資料のとおり、歓迎セレモニーを皮切りに日本文化体験、細岡展望台でのガイド、音楽、書道、美術、英語の授業体験等を実施し、本校生徒が主体となった交流を行なうことができた。また、今年度からの新しい取り組みとして、2日目の午後に釧路の街ガイドを実施した。このプログラムは本校の生徒が事前に見学コースを一生懸命考えて企画し、当日はガイド役となって釧路市内、主に商業施設であったり神社であったり、春採公園などを回った子が多いが、そういったところをご案内するようなものである。行動を共にする中で、やはり交流が一層深まるようで、解散する際には別れを惜しんで泣いてしまうような生徒もみられるなど、本当に有意義な取組であったと感じている。2日間の交流を通して、景文高級中学の生徒から、急ぎ感想をくれたのだが、昨年11月に景文に来てくれた時、見学旅行のことだが、その時に交流した友達と再会できたことがとてもうれしかったという声であったり、昨年に続いて参加した方が2名おり、交流期間が1日から2日に伸びたことで、より北陽高校の生徒と深く関わることができて、昨年より良かったというような感想をいただいたところである。また、両校の校長間で今後の交流について意見交換を行う時間がとれた。その中で今年度については、我々北陽高校が見学旅行で景文高級中学を訪れる際に、今までよりも滞在時間を少し延長して、交流内容の充実を図っていかうということであったり、北陽高校から景文高級中学へ3月に短期研修に行ったのだが、この取組を継続していくとともに、逆に景文高級中学から北陽高校へ短期留学の希望があれば、当然我々としても受け入れていくことも約束できた。また、来年度の景文高級中学の教育旅行については、北陽高校での受入れを今年度同様に2日間で実施していかうと確認をしたところである。

◎この報告について、各委員から次の通り発言あり

(大山委員)

北陽高校のインスタグラムを拝見した。今回の来校に至るまでに、生徒たちがどのように歓迎しようか、どこに連れて行こうかと、一生懸命に計画を立てていたプロセスが本当によく伝わってきた。発言されている生徒たちの表情が大変素晴らしく、こうしたプロセスこそ

が国際交流において本当に必要なことなのだと改めて感じた。また、実際の交流場面も拝見したが、グループワークの際なども、どちらが北陽高校の生徒で、どちらが景文高級中学の生徒かわからないと思えるほど、自然に話し合いに溶け込んでいた。ここまで順調に素晴らしい交流を形にされたことに心から敬意を表したい。

(金安委員)

歓迎セレモニーや授業体験を見学させていただき、それぞれ非常に素晴らしい取組であると感じながら拝見した。その中でも一番感動したのはセレモニーの中で台湾の学生が歌を披露してくれたシーンである。緊張や寒さもあったのかあまり声が出ていない様子だった。その際、北陽高校の生徒たちが自発的に手拍子を始めたり、手を振ったりして、なんとか会場を盛り上げてあげようという姿勢を見せてくれた。その優しさと機転にとっても感動し、本当に素晴らしい場面を見せていただいたという気持ちになった。今回のセレモニーでは、来校した台湾の学生側に緊張や環境の違いによる硬さが見られた。今後のプログラムに向けて、例えば生徒たちでアイデアを出し合い、最初に一緒に歌を歌うなど、緊張が少しほぐれるような交流のきっかけが冒頭にあるとさらに良いのではないかと感じた。今回の北陽高校の生徒たちの主体的な気づきや配慮は、全体を通して本当に素晴らしいものだったと感じている。今後の事業に関しても大いに期待している。

(靱山委員)

台湾の生徒も北陽高校の生徒も、双方がこの日を本当に楽しみにしていたのだということがとても伝わってきた。私たちが参加している中でも、実際に楽しみにしていたという現場の声を聞くことができ、交流の様子を見ても笑顔があふれていて、本当に楽しんでいる姿が印象的であった。昨年は初めての取組ということもあって、コミュニケーションをとる生徒が一部に限られていたり、どうしようと戸惑う部分が見られたりしていた。しかし今回は、事前準備をしっかりと重ねてきた成果だと思うが、多くの生徒が積極的にコミュニケーションをとっていた。もし会話が一部詰まってしまったり、上手く意思疎通が図れなくなったりしたときでも、お互いに支え合い、生徒同士でフォローし合いながら一つのことに取り組んでいる姿が見られた。今回の経験が自信に繋がってくれることを願っている。

(小出委員)

違う文化、話す言葉や感じる言葉も異なる中で、それぞれ同じことをやっても、アプローチの仕方が違ったりする。そういった違いをみんなでグループになって体験し、体感できるということはとても素晴らしいことだと感じながら拝見していた。この年代において、同年代の子ども同士で交流することの意義は大きい。釧路にいる高校生だと、身近なところだけが自分の世界だと思っている生徒も多いと思う。しかし外国から言葉も通じにくく、文化も違う同年代の生徒が来て接することにより、世界はもっと広いのだと身をもって知る大変良い機会になっているのではないかと感じた。みんなで活動している様子を見ながら、実際に台湾へ行った生徒だけでなく、1年生も2年生も含めた北陽高校の全ての生徒がこうした体験を共有できているのだと感じた。高校生という多感な時期に、誰もが人間的に成長する機会に恵まれているのは大変幸せなことだと思う。このような機会を作るために奔走された関係者

の皆様には、本当に素晴らしい機会を作ってくださったと感謝している。台湾の生徒たちにとっても良い思い出になればと願いつつ、楽しそうに活動している様子を拝見した。

(岡部教育長)

教育委員から話の内容は、学校へ戻られたら後に、交流に関わっていただいた先生方にお伝えいただきたいと思う。

#### 【公開案件】報告事項

(5)「CONSADOLE HOKKAIDO TOURS」における北海道コンサドーレ札幌の選手来訪について

(池田スポーツ課長)

報告事項5、「CONSADOLE HOKKAIDO TOURS」における北海道コンサドーレ札幌の選手来訪について報告する。

北海道コンサドーレ札幌では、「行政とのつながり」、「ファンやサポーターとの交流」、「次世代の育成」を目的として、選手たちが道内各市町村を訪問しており、この度、4年振りに釧路市を訪問いただけることとなった。釧路市に係る主な来訪日程及び内容としては、6月9日(火)15時に釧路市役所を来訪し、市長表敬訪問を実施、6月11日(木)10時30分から芦野小学校において5年生の児童との交流事業を実施する予定となっており、来訪される選手は資料に記載のとおりとなっている。株式会社コンサドーレと釧路市は、平成30年5月26日に包括連携協定を締結し、相互に協力した取組を行っているところである。今後においても青少年の健全育成や競技力の向上、スポーツの普及・振興にむけて引き続き連携を進めてまいりたい。

◎この報告について、各委員から次の通り発言あり

(岡部教育長)

芦野小学校の5年生を対象とするのは、どのような繋がりで選定したのか。

(畠山総括指導主事)

話を受け過去の実績なども踏まえながら検討した。実施日である6月11日は、小学校の運動会シーズンにあたり、ちょうど6月6日に運動会が終了する芦野小学校において、日程の都合が合いやすいということで、学校側にお願いをした経緯がある。対象学年については、学校内で最もふさわしい学年を検討していただいた結果、5年生という形になった。

(岡部教育長)

内容としては、サッカー教室のようなものをイメージすれば良いか。

(畠山総括指導主事)

サッカー教室というよりは、様々な運動を経験するプログラムとなっている。選手と交流しながらリレー形式でドリブルをしたり、一緒に走ったりといった内容を予定していると聞

いている。

## 【公開案件】報告事項

### (6) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項6、学校の現状について報告する。

新学期がスタートして約2か月近くが経過しようとしている。ゴールデンウィークも大きな事故等はなく、連休明けから本格的に各学校の今年度の教育活動が始まったところである。5月は中学校では宿泊研修や修学旅行がピークを迎え、また小学校では遠足、そして早いところでは運動会の準備等に入っている学校もある。

先日の校長会議では、信頼に記載した2つのエピソードを紹介した。1つは、ある小学校の児童会役員選挙での立会演説会で、会長候補の児童が「授業がもっと面白ければ、もっと学びたいと思うはず。僕が会長になったら、先生に働きかけてもっともっと授業を楽しくしてもらおうと思っています」と演説し、賛同を得たという話である。これは「学びたい・わかりたい」という子どもたちの切実な願いの代弁だと捉えている。もう1つは、中学校の職員会議の中で、あるベテランの先生が最後に、全部の先生に向けて「何でも教頭先生に頼り切るのではなく、自分たちでできることは自分たちでやっていかなければ駄目なのではないか」という呼びかけをしたという話である。教師自身の「自立」と「チーム学校」への、教頭先生を含めて自分たちの働き方改革をもっと進めようという熱意の表れだと、周りの先生方は捉えていたと伺っている。こうした子どもたちの声や先生方の声を学校経営にもっと活かしてほしい、グランドデザインに反映させてほしいということは、年度当初の教育長の訓示にもあり、校長会議でも確認したが、こういうことが信頼に応える学校づくりの第一歩であるということで、改めて信頼を通してと、校長会議で校長先生方には周知とお願いをしたところである。

4月に行われた全国学力・学習状況調査についてである。すでに実施済みの調査結果については、釧路市版集計ツールを用いて、各学校から提出済みであり、現在集計し整ったところで、分析・吟味中である。そのような中で、ある中学校では、過去問をただ印刷して配るのではなく、計画的・定期的に授業で扱い、授業の中で問題の意義や解き方を丁寧に指導した結果、あくまでも自校採点ではあるが、数学の点数が大きく伸びたという報告があった。この学校では、学力向上セミナーや個別に実施している学力向上協議等で知り得た、これまで成果を上げてきた学校の実践例を忠実に真似して取り組んでみたところ、一定の成果がみられているという話である。夏に公表される正式な結果を待つのではなく、自校採点の結果を「明日からの授業」や「宿題」等に即座に活かしていくというのが、改善のサイクルということで、確かな学力向上の鍵となることから、単なる集計や分析に留まらずに、この結果を、スピード感をもって指導に活かすよう各校に改めて確認をしたところである。

毎年5月・6月は「釧路管内コンプライアンス確立月間」となっている。特に「飲酒運転

の根絶」をはじめ、重点とされている5項目を中心に改めて各学校で厳正に確認し、教育公務員としての自覚を徹底するよう指示した。

今年度の教育研究センターの教育講演会は10月10日（土）に、コーチャンフォー文化ホールで開催する。今回の講演講師は標茶町出身で釧路北陽高校卒業、現在はクリプトンフューチャー株式会社代表取締役の伊藤博之氏にお願いした。同氏は、歌詞とメロディーを入力して歌わせることができる音声合成ソフトウェア及びそのキャラクターである、あの初音ミクを開発した会社であり、中心人物の方である。釧路出身で今や全国적으로活躍されている同氏には、今、釧路市が進めているふるさとキャリア教育にかかわってのお話をお願いしている。詳しい内容等がさらに決まってきたら、改めて教育委員の皆様にご案内申し上げたいと思っている。

◎この報告について、各委員から次の通り発言あり

（大山委員）

最初のエピソードの件で気になったのだが、1つ目の小学校で授業評価について、その授業評価が現場にフィードバックされていなかったのではないかという心配がまず1点ある。2点目に、2つ目の中学校の話で言うと、このレベルから今まさに働き方改革をスタートしなければならないとするのであれば、現在、小西課長が進めている働き方改革は中々大変ではないか。学校が少しずつ変わりつつあるということで、あえて今回の資料にこれらの課題を載せてきたのだと思うが、その辺りの受け止めや実態はどうか。

（本川教育指導参事）

指摘のとおり、もし以前から授業評価を適切に活用していれば、もっと子どもたちが楽しいと思える授業や、わかる授業を展開できていたはずである。そうなっていれば、あえて今回のような演説をして喝采を浴びるという事態には至らなかったと考えている。裏を返せばこれまではそうではないと捉えていた子どもたちもいたということであり、その部分については、ぜひ現場の先生方にもしっかりと受け止めてほしいと考えている。2点目の働き方改革という観点について、現在様々な取組を進めている中での実態をご説明する。当該中学校の校長によると、これまでは教頭に頼りきりになっている教員が多かったとのことである。しかし今回の件を受け、目に余る状況を見かねたベテラン教員から、自分も含めてもっと自分たちの力でやっていこうと、周囲や自らを律する言葉が自然と掛けられるようになったと聞いている。